

友愛

Y U A I

112

平成28年12月1日発行



特集 認知症支援を
推進しています

特集 高校生がワークキャンプを体験

●ふれあい通信

●スタッフエッセイ



参加者が笑顔になれるカフェ☕

認知症支援を推進しています

認知症のご本人、家族の方々は、自分で悩みを抱え込んでしまうことも多くあります。でも、悩みを語り合い、気軽に専門的な相談ができる場があるのをご存知ですか。

それが「カフェスマイル」です。



このカフェが最初のきっかけとなって、制度の利用を始めた方もいらつしゃいます。コーヒー代などの利用は無料で、静苑ホームにお電話をいただければ送迎もしていますので、参加者に利用しやすく、ほっと一息つける場になっています。

一周年を迎えた記念イベント スタバのコーヒーでにぎやかに



認知症カフェは昨年10月に始まり、一周年を迎えました。より多くの方に親しまれるよう「カフェスマイル」という愛称をつけました。また、10月18日にはスターバックスコーヒーのご協力により、一周年記念イベントを開催。スターバックスの社会貢献事業の一環でもある催しとなりました。

「江別でスタバのコーヒーが飲める」と、これまで一番多い30名近くの参加者がありました。専用サーバーから注がれるコーヒーやスタバのマーク入りカップで、皆さんスタバの味と雰囲気をつぶり楽しんでようです。

担当の佐藤良博さんは「他の事業者の方と協力したのは初めてです。新鮮な取り組みで、参加者の皆さんの評判もよかったと思います。今後も魅力



デイサービスセンター
友愛野幌通所介護職員
佐藤 良博さん

的な集まりにするために、静苑ホームの他のイベントと共催するなどしていきたいですね。また参加者のお話を伺っていると、なかには介護が必要なのもいるので、そうした相談にも応じています」と語っています。

医療・介護・地域の三者で 認知症のサポートをしていきます

認知症は誰もがなるかもしれない、身近な病気の一つです。しかし、まだ偏見があったり、自分や家族の認知症を相談できなかったりするケースも多く見られます。しかしこれからは医療・介護・地域の三者が協力しあって、本人、家族を支えていく時代。そのために「認知症カフェ」という場を設けたり、地域で認知症の方とその家族を支援する専門職の配置が必要となっています。

野幌第一地域包括支援センターに、10月1日から江別市認知症地域支援推進員として館崎聖子さんが着任しました。「おもな仕事は、地域包括支援センターに籍を置き、医療・介護・地域の連携を図ること。そして、認知症の状態に応じた支援体制の仕組みである『認知症ケアパス』の作成です」と、同センター所長の佐々木修司さん。認知症の人がたとえば旅行や趣味などの楽しみをもって、地域で安心して生活できるようなサポート体制づくりを目指して、これから活動していきます。



野幌第一地域包括支援センター所長
佐々木 修司さん

地域の人々が気軽に集まって お互いに悩みを話し合うことも



静苑ホームで毎月第3火曜日に開かれている認知症カフェ「カフェスマイル」。国の施策の一つでもあります。認知症の方、その家族の方々を中心に、地域の人々が気軽に集まれる場です。専門スタッフの

悩みを相談したり、アドバイスをもらったりできます。介護などの相談もあり、認知症だけではなく幅広い相談窓口になっています。

毎回、専門スタッフがテーマを設けて、20分ほどのお話もしています。認知症予防の体操、脳機能の訓練、制度の変更点など、興味深いことを取り上げています。

参加者の感想

「83歳の母親を連れてきたのですが、同年代の方とお話できて、楽しそうでした」

「日常生活で悩みを話したい方がいるのがわかりました。もっと地域の人に知られるといいですね」

「私は介護者の心理ステップ表の第2～3ステージかと自覚しています。パンフレットが参考になりました」

「主人が認知症です。初めてでしたが、おいしいコーヒーをいただき、色々説明してもらい、本当に楽しかったです」



江別市認知症地域支援推進員
館崎 聖子さん

認知症の方に サービスをつなぐなど ネットワークづくりを進めます

館崎聖子さんはケアマネジャーの資格を持ち、認知症の介護現場で15年のキャリアを積んできました。そこで痛感したのは「認知症の方に『何もわからない人』として接するのではなく、人間としての尊厳を大事にすること」だと言います。

認知症の方が安心して地域で長く楽しく暮らせるようにしたい。そのための医療・介護・地域のネットワークをつくるのが仕事です。そのためには住民相互のコミュニケーションを増やすことも大切。「町内会や地域の行事、認知症疾患医療センター（すずらん病院）との連携を通して、自分の存在を知ってもらうことから始めています」と館崎さん。

また、認知症になり始めてから進行していく段階ごとに、どのようなサービスや相談機関があるのか、それをわかりやすく解説するガイドブック『認知症ケアパス』の作成も担当。江別市の認知症支援推進の要として、忙しい日々を過ごしています。



憩いの場になっています

地域の人たちが気軽に集える場所を提供したいという目的で、「たすけあいワーカーズふわっと」が、静苑ホーム1階喫茶室で「カフェふわっと」を開いています。コーヒーやお茶と共に、各自が持参したお菓子をいただきながら、日常生活の悩みごとを話してみたり、身の上話をしたりなど、終了後には気持ちが晴々すると大好評です。よろしければ、一度のぞいてみてはいかがでしょうか。

《カフェふわっと営業日》
毎週金曜日 午前10時～正午
料金/飲物代として100円



いかがですか?

ご利用者と作り上げた『かかし』



ご利用者から依頼を受け、第5回かかしコンテストに応募しました。卓球の水谷選手をモデルに、ご利用者と泣いたり笑ったりしながら作りあげました。白い毛糸を黒く染めて髪の毛に、新聞紙をまるめ服を着せ、釘を打ちつけたりして、絶対優勝を目指して作りあげました。残念ながら優勝はできませんでしたが、私たちにとっては金メダルの作品です。

♥2016年BIG貼り絵が完成しました♥



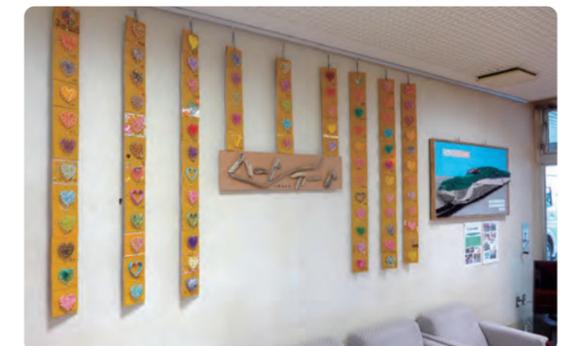
ご利用者の声にお応えし、平成28年1月より模造紙4枚の貼り絵に取り組みました。テーマ「虹～和顔愛語」です。多くのご利用者が心を込めて折ったハート1,000枚を重ね合わせ虹が完成。周囲はちぎり絵、和顔愛語はお花紙を丸め綿で飾りました★
鮮やかな彩で色を見たり、色を考えたりすることは脳トレーニングに!ちぎる、丸める、切る、型をとる、塗るなどの作業は手指のリハビリに! 苦難を乗り越えできあがったときの感動! 製作は励みとなり、交流の場としても関係性を深めています。第二弾の貼り絵も開始していて、今からできあがりを楽しみます!

秋の遠足に行ってきました~!!



子どもたちみんなが楽しみにしていたこの日は、お天気にも恵まれ遠足日和でした♪4・5歳児は湯川公園、2・3歳児はさくら公園まで頑張って歩いて行ってきました(^^)公園の遊具で遊んだり、鬼ごっこを楽しんだり、忍者修行をしたクラスもいたり、みんなとっても楽しんでいました♡
そして一番楽しみにしていたのはやっぱり...お弁当!!この時を待ってましたとみんな大喜び!「今日のお弁当トロ〜♡」「僕は仮面ライダー!」と大興奮!お友だちと見せ合いっこしながら口いっぱい頬張っていましたよ♪
0・1歳児は、近くをお散歩した後に保育園でお弁当を食べました♪お口にご飯粒をつけて嬉しそうに食べる姿に保育士もメロメロ♡とっても楽しい一日でした(^^)/

希望される趣味活動を支援しています!



通所リハビリテーションではご利用者が希望される趣味活動を支援しており、今回は昔大工さんをされていた方が「大工仕事をしたい」と希望されたため、「ストリングアート」の土台づくりをしていただきました。コンパネの板を12cm四方に切って、そこに16本の釘をハートの形に打ちつけた土台を100枚作成していただきました。土台はご利用者や職員一人ひとりに提供して、自由にいろいろな色の糸を通していただいて完成。できあがってみると、それぞれの作品がとても個性的で、何とも言えない「味」があります!

笑顔と真心が届いています!!



皆さまは「江別ときめいく」をご存知でしょうか! 社会福祉法人長井学園、錦町ワークサポート陽だまりの郷が運営。イオン江別店に店舗を構え、江別市各所への外交販売も行っております。7月からケアハウスにもお越しいただいております。パンはフワフワ、お菓子はほっこり甘くて美味しくご利用者に大変ご好評をいただいております。今後も心のこもった美味しいパンやお菓子、そしてあふれる笑顔をお待ちしております!!

福祉の現場で
若者が成長します

高校生が ワークキャンプ を体験

今年も市内の高校生たちがワークキャンプに参加してくれました。恵明園、静苑ホーム、友愛ナーシングホームでの体験を通して、若者たちは様々なことを真剣に考え、自身の将来に役立てようとしていました。

福祉のこころを伝える 福祉教育で地域貢献

北海道友愛福祉会と江別市社会福祉協議会が主催するワークキャンプ事業は、高校生を対象とする宿泊型の福祉体験イベントです。『人と人が支えあうことの大切さ・楽しさを知る』福祉教育を目的に、恵明園、静苑ホーム、友愛ナーシングホームの3施設が、法人の地域貢献活動として取り組んできました。

20年以上継続している事業ですが、今年度より新たに福祉教育を専門とする鳥居一頼氏・藤女子大学非常勤講師がアドバイザーに就任し、各施設の担当職員とプログラムの見直しを

行うなど、更なる向上に向けての取り組みを行っています。

近年の傾向としては、参加者の減少が課題となっていました。担当職員がポスター制作や直接学校訪問を行うなど、広報活動に積極的に取り組んだ結果、8月開催のワークキャンプには9名の高校生に参加していただくことができました。『将来は医療職に就きたい』『ユニバーサルデザインに興味がある』『学校でボランティア部に所属している』など、参加学生の想いは様々でしたが、貴重な経験になったのではないのでしょうか。

北海道友愛福祉会は、今後も地域の福祉教育に積極的な取り組みを行ってまいります。

静苑ホーム



たった一人で参加した 熱心な生徒に感謝

女子高校生1名だけのキャンプでしたが、一人でも来たいという強い意欲のある参加者で、充実したキャンプになりました。事前の質問事項でも「ご利用者と家族のトラブルを防止する方法」「ご利用者の入居に際しての不安」「今までのトラブルの問題点」などを書いてくるなど、意気込みを感じました。声かけや誘導など、介助の仕方の

参加者の感想

体験で学んだことを 将来の仕事にいかしたい

車イスの操縦の難しさやご利用者に合わせた食事の工夫など、様々なことを教わりました。栄養士の方のお話で、介護士以外の職業もすべて密接にかかわり、みんな重要な役割を担っていることがわかりました。私は将来、病院の人を助ける仕事に就きたいと思っているので、今回学んだことをいかしていきたいです。

体験では、本人は「難しかった」と感想を漏らしていましたが、スムーズにできていたと思います。また、「介護士がご利用者の食事の摂取状態を観察し、その情報を得て管理栄養士が次の献立を考えている」という話などを聞き、施設全体が協力している関係プレーだということに興味を引かれたようです。「夜の語らいでは新人介護士の方と話し合い、新人が抱えている悩みが分かって、私たちにも参考になりました」と、担当者の金子里美さんは言います。

また、もう一人の担当者の川岸正和さんは、「学びの吸収という点で、手応えのあるキャンプでした。参加者の人数ではなく、熱心な人が一人でもいいんだ、ありがたいと思えました」とやりがいを感じています。

恵明園



思い込みやマイナスの イメージを払拭

参加してくれた3名の高校生は、いずれも視覚障がい者と接するのは初めてでした。「おとなしく静かに、すべてを手伝ってもらって暮らしている」など、プラスのイメージを持っていなかったようですが、ワークキャンプによってそれを覆されたようです。アイマスクによる体験ではリードしてくれる人の存在によって不安がなくなるなど、視

参加者の感想

人生を楽しんでいる姿に 感銘を受けました

アイマスクをして視覚障がいを体験したときは、人が横を通るだけで恐怖を感じるようになりました。またご夫婦ともに目に障がいを持っていないが子どもを2人育てた方のお話では、とても前向きに人生を楽しんでいる姿に感銘を受けました。これからは自分の思い込みを捨て、障がい者と接していきたいと思えます。

また「点字を打つ体験では、『視覚障がい者はみんな点字が読める』『施設は点字だらけ』という思い込みも変わったようです」と、担当者の横山敦夫さん。

ご利用者は、孫の世代の高校生たちと触れ合えることを楽しみにしており、積極的にかかわっていました。そのおかげで、高校生の気持ちも早くなじみました。参加者の一人は「人とコミュニケーションを取るのが苦手で、最初はとまどっていました。しかし皆さん明るくておもしろい方々ばかりで、すごく楽しかったです」と感想を書いてくれました。このようにご利用者の皆さんが人生を明るく楽しんでいることを理解していただいたキャンプになりました。

友愛 ナーシングホーム



高校生の反応や感想は 施設にとっても有意義

野幌高校のボランティア部の4名、立命館慶祥高校の1名の5名が参加してくれました。ご利用者からアプローチしてくれたこともあり、皆さんわりと早くなじんだようです。将来リハビリ系に進みたいという参加者もあり、「どのような機械で、どんなリハビリをしているか」など、とくに興味を持って参加していました。また、実際にリハ

参加者の感想

ご利用者に適した 取り組みを知りました

今回一番強く感じたのは、「ご利用者それぞれにあった介護・取り組みをする」ということです。食事介助ではご飯と魚を合わせて口に運ぶ、リハビリの療法士はご利用者の家の状態まで確認しているなど、本当に多角的にご利用者をとらえていることを感じました。医療職に就いたら、今回のことを忘れずにかんばります。

ピリを受けてみて「気持ちいい」とか、やってみて「難しい」など、様々な感想を持ったようです。

各種の介護用具を見て、使ってみるという体験、ご利用者と一緒に体操するなど体を動かす体験、さらにご利用者の話を聞くなど、多くのプログラムを通じて、「介護をするには、たくさんのお話を学ばなければならぬ」ということも、理解してくれました。

担当した竹村祐佳さんは「体験後のレポートでは『とても大変で忙しくても、高齢者の方々とかわって仕事をしたい』という職員さんがいて、とても素敵でした」と書いてくれたのが、私の励みにもなりました。施設にとっても有意義なキャンプになったことを喜んでいきます。

スタッフ エッセイ

私は函館出身なのですが、函館にはいたるところで温泉が湧いていて、街中でもいろいろなところに温泉施設があります。小さい頃から近所の温泉に入っていたおかげか、今でも温泉が大好きです！最近3歳になった娘も親の影響で「温泉！温泉入りにくよ！」と大喜びしてくれるようになりました。家族みんなで近場から遠方までいろんな温泉を楽しみたいと思っています。



恵明園 川岸 裕宗

私の趣味はダンスです。ジャンルは、ヒップホップ・ジャズ・ロックン・エアロビです。保育園の年長さんの頃、「やってみたい！」と言ったのがきっかけでした。音に合わせて身体を動かすことが大好きです。一番の思い出は高校生の頃に札幌の強豪ダンス部に入部し、全国大会で優勝したことです。現在は週2回ダンススタジオに通い、年に3~4回、舞台に出演しています。これからたくさんの方に笑顔をお届けられるパフォーマンスをしていきたいです。



静苑ホーム 中山 るい

中学生の時から今までソフトテニスを現役でやっています。高校時代の恩師に「ソフトテニスで飯を食うことは難しいが、ソフトテニスをやっていたことで飯が食える！」と言われ、高校を卒業して10年経った今、その意味を実感しています。一度しかない青春のすべてを賭けて打ち込んできたソフトテニス。それで生計を立てることができる人は極々わずかです。しかし、一心にソフトテニスに励んだからこそ学んだ事や出会った仲間が存在など得たモノが数多くあります。それが公私にわたって今の自分の生活を支えており、とても大きな財産となっています。これからも長くソフトテニス続け、技術向上と自分自身の成長につなげていきたいと思っています。



ヘルパーステーション友愛野幌 木村 亮介

もう少しで私の大好きな冬がやってきます。岩見沢の実家のすぐ目の前にスキー場があり、小学生の頃は毎日のようにスキー遊びをしていました。現在は、中学生の頃から始めたスノーボードを楽しんでいます。仕事終わりは職場仲間と近郊のスキー場へ行き、休日には友人達とルスツやニセコなどのスキー場に泊まりがけで行ったりしています。今年は結婚をしたのでボードを新調し、夫と一緒に今まで行ったことのないスキー場にも足を運びたいと考えていて、早く雪が積もらないかと今からワクワクしています！



友愛ナーシングホーム 吉田 絵美

今年の4月から、野幌第一地域包括支援センターに入職しました。初めての業務も多く、慣れないこともありますが、周りの皆さんに支えていただきながら、日々勤務することができております。さて、私の楽しみは、ドライブと道の駅巡り！休みとなれば、道内のあちこちへ出役！今年は、念願だった占冠で雲海を見ることができました。とある日は、せたな町～松前～苫小牧まで海岸線沿いを運転し、立ち寄った道の駅でステッカーを思う存分購入。各市町村の色合いやおいしいもの(?)知ることができ、よき旅でした。来年は、知床方面にも足を延ばしてみたい！その後は、大学が東北だったので、いつか改めて覗いてみたい…。夢はまだまだ続きます。



野幌第一地域包括支援センター 大家 由紀子

今年の4月から愛保育園に勤務している筒井保乃華です(*´ω`*)
この夏はキャンプに行ったり、とにかく野外に出て美味しい物をたくさん食べました！
最近山に登るのも好きなので、子どもたちとずっと走って遊べるように強い足腰を身につけていきたいと思っています♡



愛保育園 筒井 保乃華

社会福祉法人 北海道友愛福祉会 <http://www.yuaifukushi.jp>

介護老人福祉施設・特別養護老人ホーム
短期入所生活介護
静苑ホーム

〒069-0806 江別市新栄台46番地の10
TEL (011) 389-4165 FAX (011) 389-4166

友愛野幌

TEL (011) 391-3540 FAX (011) 389-4170
●通所介護 ●訪問介護
●居宅介護支援・在宅介護支援センター
●福祉移送サービス

児童福祉施設
愛保育園

〒069-0812 江別市幸町8番地の9
TEL (011) 384-0330 FAX (011) 382-6587

江別盲人養護老人ホーム・短期入所生活介護
ヘルパーステーション
恵明園

〒067-0027 江別市豊幌美咲町23番地の8
TEL (011) 383-3351 FAX (011) 383-3598

友愛江別

TEL (011) 383-3362 FAX (011) 383-3598
●通所介護
●居宅介護支援・在宅介護支援センター

認知症対応型共同生活介護
グループホームゆうあい

〒067-0027 江別市豊幌美咲町23番地の8
TEL (011) 383-3378 FAX (011) 383-3356

軽費老人ホーム
ケアハウスゆうあい

〒069-0806 江別市新栄台46番地の12
TEL (011) 382-1123 FAX (011) 382-1022

介護老人保健施設・短期入所療養介護
通所リハビリテーション・居宅介護支援
友愛ナーシングホーム

〒069-0806 江別市新栄台46番地の12
TEL (011) 382-1110 FAX (011) 382-1022

江別市受託事業
野幌第一地域包括支援センター

〒069-0801 江別市中央町31番地の6
TEL (011) 381-2940 FAX (011) 381-2941
●介護予防支援